

# どんびま

2009年6月8日発行  
発行者 椈の湖農業小学校

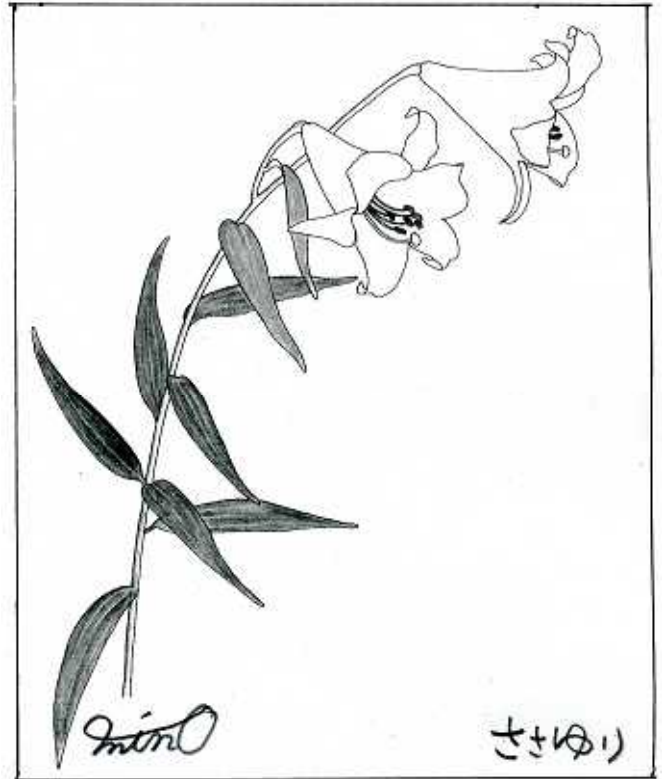
## なんじゃもんじゃ

我が家にも1本だけあるナンジャモンジャはヒトツバタゴという木の別称で、5月まるで雪が降り積もったように白い花を枝いっぱい咲かせる。

この木の咲いたのを見たことがないという義弟に写真を撮って送れと言いつつ残した母が亡くなり、駆け付けた義弟と一緒に見上げることになった。

葬儀の日の朝、棺を見送ってくれた花は、お骨になって帰った夕方には大半が散って、あたり一面白くなっていた。

ヒトツバタゴは日本列島で対馬と東濃地方だけに自生する珍種である。自然には不思議がいっぱいある。 (草)



## 6月授業日のご案内

日程 6月21日(日)

受付 9:00 ~ 9:30

始めの会 9:30 ~ 9:40

授業 9:40 ~ 12:00

お茶摘み・お茶もみ

ほうば寿司作り

昼食 12:00 ~ 13:00

授業 13:00 ~ 15:00

畑の仕事

終わりの会 15:00 ~ 15:15

昼食 ほうば寿司・吸い物・ほうば餅

服装 作業のできる服装

持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、箸  
食器、野菜持ち帰り用袋

締め切り 6月16日(厳守)

問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)  
TEL 0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ

## 「雨の中 がんばって植えたよ」

周りの山々の緑は雨にぬれていっそうその色を濃くし、ウツギの白い花が重そうにゆれていた。今日はあいにくの雨。それも、なかなか小止みになりそうにない。

お天気が良ければ、まず畑の授業をする予定だったが、前日からの雨で土はいっぱい水をふくんでいて、もし畑へ全員で入ったら畑の土をこねてしまい、それが乾くと今度は固まってしまうので、皆の楽しみを承知しながら、予定を変更せざるをえなかった。

各自が育ててきたカボチャの苗は受付で名札を書いて付けておき、後日先生方に植えていただくことになった。

収穫予定のハウレンソウ、サニーレタス、コマツナは、皆が田植えに行っている間に、田へは行かれない先生とスタッフで獲って、持ち帰りできるように分けておいてもらった。

### 1 午前の授業（田植え）

農家にとって「春作業」の仕上げは田植え。農小でも田植えはメインイベントだ。稲は分株（ぶんけつ）といって茎の本数が増えていくことなどの特性を説明し、3本植えをしてもらうようクドイ話をした。

今年も去年にならって両側から中に向かって植えていった。なかなか田圃の中に入れない子や、入っても泥に足を取られて思うようにならずせっかく植えた苗を踏み込んでしまうことも。何より降り続く雨にだんだん衣服も濡れてきてしまい寒かった。

今年は綱を跨いだり、綱の張りが決まらないうちに植えてしまうことも少なく、何より3本苗がよく守られて、非常に条件が悪かったわりには浮苗も少なかった。

お天気がよくても苦戦するのに、雨と寒さに負けないでよく頑張りぬいた。

風邪をひいた子はいなかっただろうか？ 後でちょっと心配をした。

### 2 昼食

草もち（あんこ、きなこ） ぼたもち（あんこ、きなこ） おにぎり（4種）

タケノコとワラビの味噌汁 コンフリーのてんぷら フライドポテト

レタス・キュウリのサラダ 蒸したマネギ（おかか・マヨ） たくわんの粕漬けなど

\* この地方では田植えが済むとぼたもち（牡丹餅 つまり牡丹の咲くころの餅）を作って振舞うのが昔からの慣わし。同じものを秋はおはぎ（萩の花の餅）と呼ぶ。

日本人ってちょっといいよね。

### 4 持ち帰り

\* ホウレンソウとサニーレタス

\* バケツ稲用の土と苗（コシヒカリ）

バケツの田んぼは上手く出来たでしょうか？ 苗は1株（3～5本）だけ植えましたか？ もし沢山植えてあったら今からでも1株だけ残して抜いてください。

9月にはバケツ稲コンクールをおこない、成績の良いものを表彰します。賞品もめますので、家族協力して頑張ってください。

\* カブトムシの幼虫（2匹）

オス・メスは不明です。7月には成虫を持ち寄って「カブトムシ運動会あるいは相撲大会」を開催します。大事に育ててください。

～ あぼ兄の百姓ばなし～

## 「マスクが売り切れたなら お茶でうがいを」

5月には新緑の季節、新茶の季節でもある。

21日の朝刊の県内版に「一番茶 祖父母と手摘み」と出ていたし、夕方にはテレビ放映もあった。あぼ兄の母校下野小学校のことである。現在生徒数55名の小さな学校だが40aの茶畑には60余年の歴史がある。

終戦後の混乱期、PTAの会費が大きな負担になっていた時代、先人たちは学校の敷地を毎年少しづつ開墾して茶畑を増やした。やがて茶（生葉）の販売代金でPTA活動費の全額を賄えるようになり、今も続いている。

今流に言えば「自分たちの飲む茶は自分たちで作り、余りを売ってPTA活動費にする」のだ。茶畑は農業体験の場であり、「父母、祖父母とのふれあいの場」であり、「ジュースばかり飲んでいる子どもたちにお茶の素晴らしさを伝える」食育の場でもある。

かつて、あぼ兄たちもPTA役員の際は通常の手入れの他に何時も茶畑に心を配った。特に4月から5月にかけての遅霜の被害を受けないために、ワラで編んだ菰などで覆いをする作業があり、その心配のある時は夕方その対策に走り回っていたことを忘れられない。

お茶は日本の食文化の中では欠かせないものだが、最近特に緑茶の持つ健康面への力が注目されている。癌の発生やコレステロールの上昇を抑制する効果や、抗酸化力、活性酸素除去作用があり、抗菌性、抗ウイルス力など様々な効果があるといわれている。

お茶が人々に長く飲まれてきたのは、お茶に含まれるカフェインには覚醒作用があって、昔は「目覚まし草」とよばれ修行中の禅僧の眠気覚ましにも飲まれたという。

お茶の旨み成分であるテアニンはアミノ酸の一種で、リラックスと脳の活性化と二つの効果をもつ優れたものだ。

最近注目されているのは、お茶の渋みであるカテキン（タンニン）の効果である。動物実験などでは発ガンの抑制効果が確認されている。

緑茶は虫歯菌に対して強い抗菌性があるし、インフルエンザの流行時にはお茶でうがいをすると抗ウイルス効果があるといわれている。かつてO-157が流行した時も、お茶の働きが注目されたと聞いていた。無責任には言えないが、新インフルエンザも若い人がかかりやすいというのもお茶（お茶離れ）と関連しているのかもしれない。

また、お茶には消臭効果があり、昔から寿司屋でお茶を飲むのは魚の臭いに対する消臭と生ものを食べた後の殺菌効果で食中毒を防止するものだ。それに、成分中のカリウムにはナトリウムを排出促進させる力があって、しょう油による塩分の取りすぎを解消することができる。

日本農業新聞を参考にした

お茶が神経を刺激し脳の働きを促すということを、もっと早くから知って早くから飲んでいればあぼ兄も……………。

お茶の効能・効果が分かった後は、新茶を急須でゆっくり味わってみたい。